

羽村市史編さんだより

平成31年4月

第17号

伸びゆくはむら

特集

江戸時代の改元事情

3

1 News

2 資料紹介

4 部会の手帖

5 市史編さんの足あと

5 コラム「ちっとんべえ」

第12回羽村市史編さん委員会が開催されました

2月14日（木）、第12回羽村市史編さん委員会が開催されました。今回は、平成30年度刊行の『羽村市史 資料編 近世』と『羽村市史 資料編 自然』に関して、前回会議で出された意見と市史編さん本部での指摘事項の反映状況などについて報告し、最終内容確認を行いました。また、平成30年度の事業実績と今年度の事業計画について報告し、それぞれ了承されました。

羽村市史編さん委員会の会議録は、羽村市公式サイトまたは羽村市役所3階市史編さん室窓口①でご覧いただけます。



▲第12回市史編さん委員会の様子



◀市史編さん室窓口①前の閲覧用ラック

今年度市史編さん事業計画をお知らせします

『羽村市史 資料編』の販売

これまでに刊行した『羽村市史 資料編』「中世」「近世」「近現代図録」「自然」について、販売します。

○販売価格 各2,000円

○販売場所 羽村市役所1階案内・羽村市郷土博物館

『羽村市史 資料編』の刊行

今年度に刊行を予定している資料編は次のとおりです。

●『羽村市史 資料編 考古・中世補遺』

羽ヶ田上遺跡、山根坂上遺跡、天王台遺跡、精進バケ遺跡で確認された遺構や出土遺物から、羽村市の縄文時代を探ります。また、古代から中世にかけての羽村市域の様子にも出土資料からアプローチします。平成29年度に発行した『羽村市史 資料編 中世』に掲載できなかった中世資料もあわせて掲載します。

●『羽村市史 資料編 近現代資料』

明治から現在に至る西多摩村・羽村町・羽村市の歩みについて、市内外に残された文字史料を集成します。

●『羽村市史 資料編 民俗』

市民の方々から聞き取りさせていただいた内容をもとに、羽村市における生活の様子や年中行事、祭りの様子などをまとめます。歴史的な歩みとは視点を変えた、生活の移り変わりを記録していきます。

羽村市史関連講座の開催

第5回羽村市史関連講座を12月に開催する予定です。今回は、羽村市の原始から中世をテーマに、調査の過程で得られた成果をもとにお話しします。

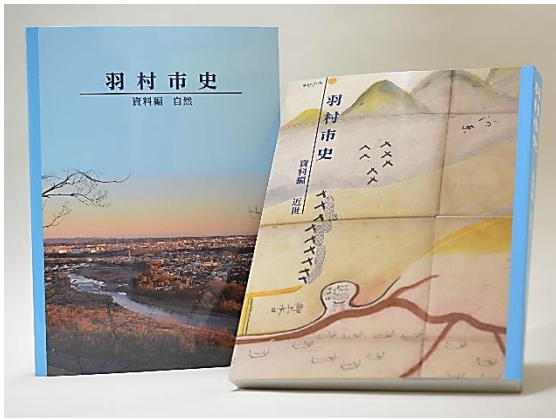


表紙の写真

旧3村の村絵図（部分）

江戸時代の「川崎村」「羽村」「五ノ神村」を描いた村絵図の一部です。川崎村絵図は北を下に描かれており、現在の堂橋が「御上水橋」と記されています。羽村絵図は、現存する最古級の絵図ですが、すでに一峰院前の田んぼが描かれています。五ノ神村絵図からは、村内に羽村や川崎村の飛び地が存在していたことが分かります。いずれも、この度刊行された『羽村市史 資料編 近世』に掲載されている貴重な史料です。

新たに『羽村市史 資料編』2冊が完成!! (販売は5月15日(水)から)



▲刊行した『羽村市史 資料編』2冊

『羽村市史 資料編』が新たに2冊刊行されました。今回刊行したのは、「近世」と「自然」です。「近世」は、江戸時代から明治初年までの、羽村市内外に残されていた古文書や絵図を集成しました。今回の調査での新発見史料や初公開史料など、大変貴重な史料も掲載されています。

「自然」は、約4年半のフィールド調査で得られたデータを分析し、羽村市の地形・地質、気象・気候、動植物や生態環境などについて、写真や地図、表などをふんだんに掲載して、わかりやすく解説しています。

○体裁…「近世」：A4版縦書き □絵カラー本文モノクロ
「自然」：A4版横書き □絵本文カラー

○販売価格…各2,000円

○販売場所…羽村市役所1階案内・羽村市郷土博物館

○販売開始…5月15日(水)

資料紹介

今号から、すでに刊行された『羽村市史 資料編』に掲載された資料のなかから1点を取りあげ、解説していきます。

第1弾は、平成29年度に刊行された『羽村市史 資料編 中世』から選んでみました。

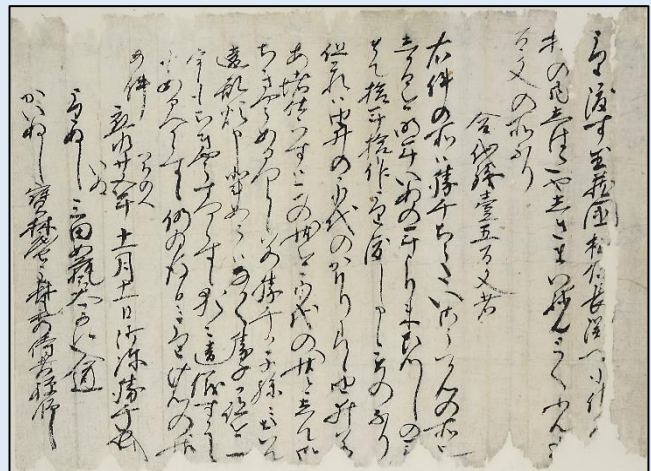
「史料53 三田勝千売券」

(資料編34ページ)

本史料は、応永25(1418)年に作成され、「小作(小佐久)」初見史料として知られているものです。室町時代から「小作」という名の集落が存在していたことが分かります。文書の内容は、三田安芸太郎入道(勝千)なる人物が、毎年500文の取り分のある、先祖代々受け継いできた小佐久村のしばた屋敷という土地を、宝林庵(宝林寺)の住職に代銭1貫500文で10年にわたり売り渡す(貸し付ける)ことが書かれています。この三田勝千は、現在の八王子市内に比定される由井郷にも所有地があったようで、売り渡しに条件を付しているようです。

小佐久(小作)村は、当時、柚保と称される一帯を支配していた三田氏の勢力範囲で、本資料編に掲載した「一峰院過去帳」(史料63)「三田将定位牌銘」(史料64)「阿蘇神社棟札銘」(史料196)にも三田氏一族の名前が見られます。

原資料は「旧宝林寺文書」として青梅市指定有形文化財に指定され、青梅市郷土博物館に収蔵されていますが、羽村市郷土博物館にもレプリカが展示されています。



うり渡す武蔵国柚保長淵郷小佐久村の内しはたやしき、まいねんとくふん五百文の所なり、
合代銭壹五百文者、
右、件の所ハ、勝千ちうたいさうてんの所也しかるを明年いぬの年より、来ひつしの年まで、拾年拾作うり渡し申候ものなり、但これハ由井の永代のかわりにて候、由井若安堵仕らすハ、この状を永代の状として、御ちきやうあるへく候、若勝千か子孫二おいて、違乱煩申輩あらハ、なかく勝千か跡を一宇もちきやうすへからす候、猶々違儀すこしもあるへからす候、仍為後日、うりけんの状如件
つちのえ
應永廿五年十一月十一日沙弥勝千(花押)
うりぬし いぬ
三田安芸太郎入道
かいぬし 宝林庵主梵秀侍者禪師

特集 江戸時代の改元事情

新年度になり、来月の改元に向けて新たな元号が公表されました。約30年ぶりの改元ということもあって、元号について関心をお持ちの方は多いのではないのでしょうか。今回は江戸時代の改元についてみていきたいと思います。

《今と昔の改元事情》

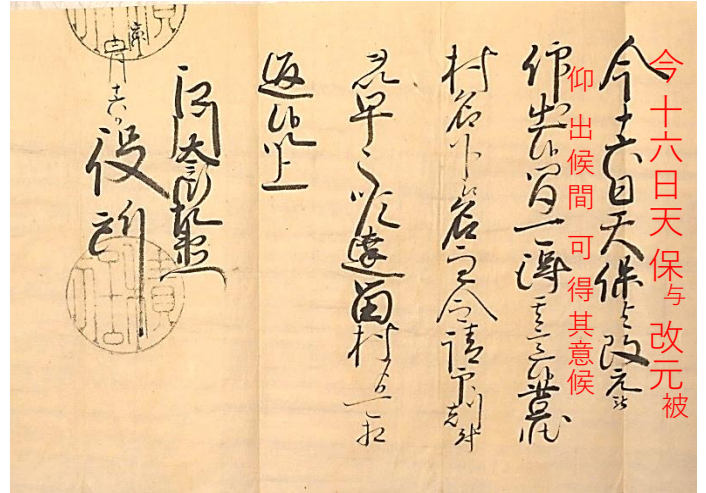
現在改元が行われるのは皇位継承時のみであり、天皇一代に一つの元号という所謂「一世一元」であることはご存知のことと思います。では、江戸時代には現在のような元号の規定はあったのでしょうか。

慶長20年（1615）に定められた「禁中並公家諸法度」には改元についての規定があります。ただ、その内容としては「一、改元、漢朝年号之内、以吉例可相定（漢朝の元号で良いものを選定する）、……」とあるように新元号の選定方法について言及されているだけであって、改元を行う是非や時期などの規定はありませんでした。

当時も皇位継承の際に改元がなされることはありましたが、この他にも「吉凶の象兆」、すなわち瑞祥（吉兆）や災害の発生（凶兆）に際しても改元が行われていました。

江戸時代を通じて皇位継承は14回行われていますが（下表参照）、改元は35回確認できます。幕末に即位した孝明天皇が在位していた約20年の間には、政局が不安定だったこともあり6度の改元がありました。また、明正天皇（在位：寛永6年（1629）～寛永20年（1643））のように在位期間中の改元が行われなかった例も存在します。しか

しながら平均して在位期間中に2～3回、おおよそ10年に1度の頻度で改元があったので、現在の私たちの感覚からすれば頻りに改元が行われていたことがうかがえます。



▲領主より改元を伝える書状

《羽村地域に残る改元の記録》

現在の羽村市域においても江戸時代の改元に関する記録は残されています。写真の史料は12月16日に幕府から改元があったことを伝えられた領主が各村々へその旨を通達したものです。また、羽村の御用留（村役人などが日常的な連絡事項を書き留めたもの）には「一、十二月十六日 天保と改元仰出候趣、同十八日被仰渡候」とあり、12月16日に改元されたことが2日後の18日に羽村へ伝

わっていたことが記されています。写真の史料には、改元の通知の後にこの廻状を各村の役人が回覧した際に、押印と刻付（第12号特集参照）を付して全ての村が確認した後に領主へ返送するよう命じています。ここから改元に関する情報は早々に村々へ共有させ、領主も情報の周知を徹底していたことがうかがえます。

和暦	西暦	月日	天皇
元和元	1615	7月13日	後水尾天皇
寛永元	1624	2月30日	
正保元	1644	12月16日	後光明天皇
慶安元	1648	2月15日	
承応元	1652	9月18日	後西天皇
明暦元	1655	4月13日	
万治元	1658	7月23日	
寛文元	1661	4月25日	靈元天皇
延宝元	1673	9月21日	
天和元	1681	9月20日	
貞享元	1684	2月21日	東山天皇
元禄元	1688	9月30日	
宝永元	1704	3月13日	
正徳元	1711	4月23日	中御門天皇
享保元	1716	6月22日	
元文元	1736	4月28日	桜町天皇
寛保元	1741	2月27日	
延享元	1744	2月21日	

和暦	西暦	月日	天皇
寛延元	1748	7月12日	桃園天皇
宝暦元	1751	10月27日	
明和元	1764	6月2日	後桜町天皇
安永元	1772	11月16日	後桃園天皇
天明元	1781	4月2日	光格天皇
寛政元	1789	1月25日	
享和元	1801	2月5日	
文化元	1804	2月11日	仁孝天皇
文政元	1818	4月22日	
天保元	1830	12月10日	
弘化元	1844	12月2日	孝明天皇
嘉永元	1848	2月28日	
安政元	1854	11月27日	
万延元	1860	3月18日	
文久元	1861	2月19日	
元治元	1864	2月30日	
慶応元	1865	4月8日	

江戸時代に行われた改元一覧

部会の手帖



各部会の活動の様子を紹介します。

※1～3月の活動をお知らせします。

今号からレイアウトを一部変更しています。

第2部会

『羽村市史 資料編 近世』の刊行に向けて、部会全体で最終的な作図・校正作業を行いました。今年度は『羽村市史』の本編に向けて、担当分野における補足調査や執筆に関して協議を進めていきます。

第4部会

資料編の校正作業を行い、原稿の最終確認、図表の修正等を行い、校了しました。
引き続き、本編原稿作成のためのデータの分析や補充調査を行っています。

用語の解説

*カラスの正月

新年初の鍬入れのこと。カラスの霊力を信じてその年の豊作を願った。

*エベス講

えびす講のこと。恵比寿さまをまつる行事で、正月は商売繁盛、11月は五穀豊穡を願うものとされた。

*太子講

建築関係の守護神とされる聖徳太子（厩戸皇子）をまつる祭礼。

第1部会

縄文班、中世班とも資料編原稿執筆を進めるとともに、補足作業の必要な箇所がないか確認を行いました。あわせて山根坂上遺跡、羽ヶ田上遺跡の土器出土位置確認の補足調査も行いました。また、デジタルトレース作業量が多いため、作業状況や問題点を共有しながら進めています。

第3部会

市役所に保管されている公文書のリストを作成し、資料編掲載史料の選定を行いました。昭和30年からの広報記事について、筆耕作業を開始しました。また、東京都公文書館に保管されている西多摩村、羽村町関係の文書の複写作業を進めました。

さらに、近隣図書館等において、関係資料の確認、複写作業を行いました。

第5部会



12月に引き続き1月、2月も年中行事がつづき、まゆ玉飾り、カラスの正月、どんど焼き、エベス講、太子講など個人宅をはじめ市内で行われている行事を調査しました。また、資料編の執筆を進めながら、確認・追加の聞き取り調査も随時行っています。

市史編さんの足あと

※①～⑤は部会の数字です。（例）① ⇒ 第1部会

月	日	できごと
1月	1日（火）	⑤市内行事調査（稲荷神社）
	6日（日）	⑤市内行事調査（郷土博物館）
	8日（火）	⑤市内資料調査（郷土博物館）
	10日（木）	③庁内資料調査
	11日（金）	⑤市内行事調査（個人）
	13日（日）	⑤市内行事調査（河川敷・個人）
	14日（月）	⑤市内行事調査（宮の下公園・個人）
	15日（火）	羽村市史編さんだより第16号発行
	17日（木）	①市内資料調査（郷土博物館）
	20日（日）	⑤市内行事調査（個人）
	22日（火）	⑤市内行事調査（聖徳神社）
	24日（木）	第15回市史編さん本部開催
	29日（火）	①市内資料調査（郷土博物館）
30日（水）	⑤市内聞き取り調査（個人）	

月	日	できごと
2月	2日（土）	⑤市内聞き取り調査（個人）
	4日（月）	第12回市史編さん委員会開催
	11日（月）	⑤市内行事調査（間坂稲荷神社他）
	19日（火）	⑤市内聞き取り調査（個人他）
	20日（水）	⑤市内聞き取り調査（個人）
	21日（木）	③庁内資料調査
3月	4日（月）	③市外資料調査（東京都公文書館） 6日（水）まで継続
		⑤市内聞き取り調査（個人）
	6日（水）	第16回市史編さん本部開催
	19日（火）	⑤市内聞き取り調査（個人）
	20日（水）	⑤市内資料調査（郷土博物館） ⑤市内聞き取り調査（個人）
	26日（火）	③市外資料調査（福生市立中央図書館） 28日（木）まで継続
	31日（日）	⑤市内聞き取り調査（個人）

コラム

ちっとんべえ

野山に限らず、いまや街中でも巣をつくり、子育てをする都会派タヌキ。もちろん、羽村市内にも出没します。

みなさんはタヌキとアライグマの区別はつきますか？意外にも似ているこの2匹。比較するとしっぽの形が違う、体形が違う、顔つきが違う、など異なる点を挙げられるのですが、パッと見はとても似ています。

これをイラストで比較するととても面白いです。絵に描かれるタヌキは、だいたい顔が丸く、目の周りが濃く色取られたイラストが多いです。一方、アライグマは濃く色取られた目の周りは似ていますが、顔は横長に、ひげの辺りの毛を強調して表現されることが多いです。アライグマは割と忠実に描かれているのに対し、タヌキはややデフォルメされています。

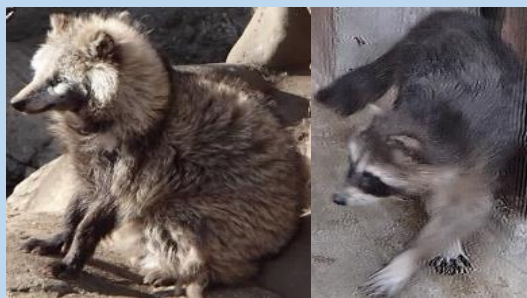
ですので、実物のタヌキを見た人の最初の一言「これがタヌキ？」にはちょっと同感です。イメージでは全体的に丸く描かれるタヌキ。実際は、けっこう精悍な顔立ちと体形をしています。

第17回 「タヌキにまつわるこぼれ話」

いざ、街中で野生動物に出会っても、一瞬で走り去ってしまったり、物陰へ隠れてしまったりとなかなか姿をとらえるのは難しいです。

まだ羽村で野生のタヌキに出会っていませんが、いつか市内で遭遇した際には、じっくりと観察してみたいものです。

みなさんもお散歩中のタヌキに出会えたら、少し足をとめて、観察してみたいでしょうか。
(S. K記)



▲それぞれの横顔
タヌキ（左）とアライグマ（右）

※「ちっとんべえ」とは、羽村の昔ことばで「ちょっと、少しばかり」という意味です。